

ビデオSALON

2016
4
APRIL

- 教材&マニュアルビデオの作り方
- スライダー活用入門

特集

読みやすい
タイトル

- ソニー4K新製品
α6300
PXW-Z150



User 2

薬師山写真館 上吉川祐一 さん

Yuichi Kamiyoshikawa

兵庫県たつの市に生まれサッカー少年だったが二十歳頃から写真&映像の世界に。現在は株式会社薬師山写真館/VOGELの屋号でブライダルや企業PV制作を手掛けている。

- ウェブサイト(薬師山写真館) <http://www.yakushiyama.com>
- スライダー使用参考映像作品
- 【婚保乃糸 PV】 <https://www.youtube.com/watch?v=axvDfeXchNw>
- 【ONE DAY 結婚式】 <https://www.youtube.com/watch?v=Q42o2pd8tWo>



↑薬師山写真館で上吉川さんとともに写真&ビデオカメラマンとして従事する石田 純さん。「写真や映像は未来の宝物」という言葉通り、ブライダルなどで良い思い出となるシーンを撮る。

フォーカスに手間のかかる一眼レフではすぐ助けてられています

●写真撮影と動画撮影を業務として行なっているため、両方の撮影でスライダーを使用しています。まず写真撮影ですが、集合写真などでカメラを2台使用したい時に便利です。これまでスタジオ撮影といえば大型三脚を2つ使用していましたが、スライダーだと2台乗せられるので軽量かつ小型化できました。動画撮影では、小物撮影時に有効に使っています。動きのない物を撮影する場合、どうしても映像に面白みが欠けてしまいますが、スライダーを使用することで縦・横の動きに加え、角度もつけて撮影できるので小物撮影時に多様なアングルからの撮影が可能となりました。

昨今、一眼レフの動画撮影時のAF機能が進化していますが微調整はやはり手動で行いたいところ。特に一眼レフの特徴であるボカシを深く

入れたい場合などは手動で設定したいシーンが多くあります。そういったシーンで更に動きを加えたい場合、自身が動きながらピントをマニュアル調整していると手ブレが発生し、撮影が困難でした。しかしスライダーを活用することで動きを補えるので、フォーカスに集中することが可能となり撮影の幅が広がりました。

リーベックのALXを使って一番の驚きは、安定性が素晴らしいことでした。今まで使用していたスライダーはスライドさせているどうしても微振動が発生し、映像にも少なからず現れていたところがネックでした。その点ALXでは微振動が全く発生しません。スライドさせる強弱に関係なく、振動が発生しないことに驚きました。綺麗な映像を残すには手放せないスライダーです。



↑80cmのリーベックALXを駆使して、より印象的なショットを狙う。スライダーには常時2つのプラットフォームを付け、2台態勢に備える。

▼「進め! Badger-1号」より



↑頭上の木からアナグマの巣穴まで、ヘッドのテイルとスライダーの縦移動効果併用。



User 3

動物写真家 福田幸広 さん

Yukihiro Fukuda

東京生まれ。「山もいいけど、海もいい!」をモットーに好きな動物のいる場所で心ゆくまで撮影するのが至福の時間。3月には日経ナショナルジオグラフィック社より「動物たちのしあわせの瞬間」が発売になる。

- ウェブサイト <http://yukihirifukuda.smugmug.com>
- スライダー使用参考映像作品
- 【進め! Badger-1号】 <https://www.youtube.com/watch?v=rpW3TFMUtMa>

動物の暮らす環境を見せる導入部などで有効な画になる

●私は写真家なので静止画が中心ですが、動物の動きがリアルに伝えられるような場面では積極的に動画も撮影しています。今のメイン機材は4K撮影のためのEOS-1DC。4月下旬からは1DX MarkIIを導入予定。さてスライダーの活用というテーマですが、野生動物の撮影ではよほどの条件が揃わない限りスライダーを使うことは難しいです。しかし動画を組み立てて物語を作る場合などには、導入部分にスライダーを使ったりします。動物が暮らす場所の風景に動きを加えることで味付けができると考えているからです。

山中をさまよって動物を探しながらの撮影では機材は最小限であることが基本。なのでよく使うスライダーは軽量のKONOVA K3の60cm。もう少し長さが欲しいと思うこともあるがワンマン取材での携帯性を考えるとベスト。この時使用する雲台はリーベックRH25Dで、通常も静止画、動画兼用で使用しています。ポー

ルヘッドの部分がフラットベースになっているのでそのままスライダー部に装着でき、携行機材も減らすことができるのです。

今までの撮影では横方向での使用がほとんどでしたが、録画中のAFが使えるようになってきたので、巣穴へ迫っていくような前進方向への撮影も積極的に採りいれます。しかしスライダーはあくまで味付け程度とし、多用するのは好みではありません。野生動物の撮影はやはり動物本来の姿を的確に捉えることに集中すべきでしょう。

→取材先の長野に愛用のKONOVA K3を置いてきているため、写真は同じく軽量で選んでいるVARA VONのスライダー。

